母の手紙

中野鈴子

青空文庫

幸助
けさ　手紙をうけとった
やっぱり達者でいてくれたか
わたしは思わず手紙をおしいただいただ
もしやこの暑さでやられてでもいるのではないかと心配していたに
牢やの中はどんなに暑いじゃろうねい
そこそ地獄じゃもの
夏は出来るだけ暑いように冬はなるべく
寒いように仕掛けてあるんじゃろうさかいね
コンクリで囲うた窓一つない箱みたいな建て物じゃと言うでないか
ようく　障(さわ)りなくいてくれた

苦労ばかりかけてきたお母さんに
またこのような心配させて申し訳もない
不孝者ととがめないでおくれ
今日の手紙にもこんなことを書いてあるが

幸助
それは初めのうちはそうと思っただ
五年前に年寄りの母親をひとりのこして
ポーイと江戸さ行ったきり
金を送るでなし一本のたよりも呉れず
そのあげくに牢やへたたき込まれたことがわかった時にゃ
不孝も不孝
牢やへたたきこまれると言うは
何ということだと思い
うらんだり　泣いたりしただ
在所(ざいしょ)の者も白い眼で見るし
村さ　はなれて他国へ夜逃げでもしようかと考えただ
本当にそう思っただ

お前はズッと東京でその
労働組合というところに
いたんだか
お前はその労働組合で
何千人何万人の働いても働いても貧乏している人のために
命も牢やも物ともしないで働いていたんだか
そして命も牢やも物ともしないで働いている人がそんなにたくさん
　いるんかいの
大学校まで出た旦那衆の息子さんらや
大学校の先生までもいなさるんじゃってな、お前の言うことはよく
　分かっただ

いまは毎日、あの田の草取りだ
昼間の暑い陽ざかりにジリジリの
煮え湯の泥田を四つんばいになって這うて
歩くのじゃ
顔も手もぼんぼんにふくれ上がり
爪の先がずくずくうずくだ

六十ごけ婆がこのように
もがいても喰う米も無(ね)いんだ
その横で地主の奥様は夏羽織で
お寺まいりなさるし、若旦那衆は
洋服で海へ行ったり
ボール投げしているだ
わたしはわかっただ

お前の言う通りだ
辛い不幸(ふしあわせ)なお母あはわたしひとりでない
喰えないお母あや息子や、子供で一ぱいだ
何と言う者がいようと　お前のしたことは真直ぐだ
お母あの生計(くらし)のことなんど小指ほども
心配するでない
お母あはこのように元気なのじゃもの
そのような　牢やの中で心配していると
お前の体が立たんぞも

お母あは、田圃の中で
いろりのくすり火の中で
牢やの中のお前と一つこころじゃ
力(りき)んでいるだ
手を合わせて念じているだ
夜も　そう思うて寝(ね)むるだ

青空文庫情報

底本：「中野鈴子全詩集」フェニックス出版
1980（昭和55）年4月30日初版発行
底本の親本：「中野鈴子全著作集　第一巻」ゆきのした文学会
1964（昭和39）年7月10日発行
初出：「ナップ　第一巻第四号」戦旗社
1930（昭和5）年12月13日発行
※初出時の署名は「一田アキ」です。
入力：津村田悟
校正：夏生ぐみ
2019年5月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

母の手紙

中野鈴子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/